

実技試験 準備品リスト

13【随時3級 構造物鉄工作業】ポリテクセンター千葉会場

「実技試験問題に『支給材料』『使用工具等』と書かれているもののうち、**持参が必須のもの**の案内です」

千葉県での受検で、ポリテクセンター千葉を会場として指定された場合は、下記の「寸法又は規格」及び「備考」の欄に記載してあるとおりのものを**必ず人数分(または指定された数量)持参してください**。なお、会場に準備してある当協会が指定した機器(溶接装置・ボール盤など)については、試験終了後必ず清掃のうえ元の状態に復帰するとともに、それらに破損・毀損等生じさせた場合(逆火させた吹管など含む)は、弁償していただきます。

また、持参した材料・工具が試験に使用できないものと認められた場合は、受検できない場合があります。よく確認のうえ持参してください。

(1名分)

○材料

更新日:2025.3.5

チェック欄	品名	寸法又は規格	数量	備考
	等辺山形鋼	SS400 50mm×50mm×6mm 長さ450mm	1	材料
	鋼板	SS400 9mm×300mm×300mm	1	材料
	六角ボルト	並目 M16×35	4	材料
	六角ナット	1種並目M16	4	材料

○工具等

チェック欄	品名	寸法又は規格	数量	備考
	被覆アーク溶接棒	JIS Z 3211軟鋼用被覆アーク溶接棒 E4319相当品 φ3.2	3	必ず、乾燥済みのものを <u>3本以上</u> 準備すること 会場の乾燥機は使用不可
	ドリル	φ17のみ ※テーパシャンクドリル(MT2)に限る	適宜	必ず、 <u>1人当たり3本以上</u> 準備すること ストレートシャンクドリルは不可 間違えると受検できない
	切削油			必要なら持参すること(清掃用のウエス含む)
	切削用油差し	切削油を含む(ただし、水溶性のもの)	1	ボール盤用持参も可
	スリーブ及びソケット		1	
	石筆		1	
	溶接用保護面		一式	JIS T8142:2003相当品。ただし、自動遮光面式(液晶式等)は不可
	ハンマ		適宜	ポンチ打ち用 組立作業用
	けがき針		1	
	ポンチ		適宜	目打ち用 心立て用 ※『オートポンチ』等として市販されているものは使用不可。ハンマで施工すること
	やすり	平 荒目・中目 呼び寸法200～300mm	各1	
	たがね	平	1	
	スパナ又はモンキレンチ	M16六角ボルトの締め付けができるもの	2	
	ドリフトピン	φ17用	4	
	ワイヤブラシ		1	
	金属製直尺	300mm程度	1	
	スコヤ	平	1	さしがねでも可
	けがき用コンパス	200～300mm	1	
	筆記用具	鉛筆、消しゴム	一式	
	作業服等		一式	保護帽、安全靴、足カバーを含む
	保護めがね		1	JIS T8147:2016相当品
	しゃ光めがね		1	JIS T8141:2021相当品(ガス溶接・切断作業用)
	防じんマスク		1	溶接作業用
	手袋		1組以上	ガス切断用・溶接用保護手袋及び一般作業用手袋 なお一般作業用手袋は軍手でも可
	清掃用具		一式	ゴミ袋含む
	資格証等	ガス溶接作業主任者免許証、 ガス溶接技能講習修了証	1	
	安全又は衛生の特別教育修了 証明書又は自己申告書			修了証明書は写しも可
	飲料		適宜	熱中症対策、水分補給用
	受検票		1	コピーしたものは不可
	実技問題	当協会から交付した原本 ※試験結果が出るまでは処分しないこと	1	コピーしたものは不可

注 意

※規定の寸法どおりのものを準備すること。また必要に応じて予備も持参すること。

※不明な点、疑問点は事前に連絡し確認すること。ただし、施工法等に関する疑問や変更に関する相談には応じません。

※ガス切断装置は、酸素・アセチレン用を準備します。プロパンガス用など他の方式は認めません。持参しても許可しません。

※アーク溶接装置は被覆アーク溶接装置を準備します。半自動機は使用を認めません。持参しても許可しません。

※穴あけ用材料支持台はボール盤用ベタパイス及びハネクランプを準備します。回り止め等は使用を認めません。

随時 2・3 級鉄工(構造物鉄工作業)

受検企業担当者様

千葉県職業能力開発協会
技能検定課 外国人技能実習生担当
E-mail:renraku@chivada.or.jp
TEL:043-296-1150

千葉県において受検される場合、『実技試験実施要領』の「1 試験場で準備するもの」(P.5～)に書かれている【支給材料】と【※】印のついている材料・道具はすべて受検者(受検企業・監理団体)にご用意いただいています。寸法、規格、数量は書かれているとおりにご用意下さい。

当日、試験環境が整っていない場合、試験を実施しないこともあります。

検定委員より実施要領に書かれている試験環境が整っていない事例が多いとの指摘があり、実際、公平性確保のため、試験を実施しなかった例も報告されています。準備する際は下記の件を理解した上で進めるようお願いいたします。

○強く指摘されているのは下記の3点です。

1、ボール盤作業の支持拘束治具の準備

→手で補助して支持することは不可能です。対応できる工具等を用意すること。

2、規定のやすりの準備 (平 荒目・中目 呼び寸法 200～300mm 各1)

→規定通りのやすりでないために正確な研磨作業ができない事例が多発。

3、横万力・作業台(万力台)の準備

→用意できないのであれば、C型クランプで鋼材と作業台を固定し、やすり作業を出来るようにすること。

試験実施の可否に関わる事柄です。充分注意して下さい。

また、以下のこともよく見受けられるとの指摘があります。

- ・試験会場が狭くて暗い(けがき作業がやりづらい)。
- ・被覆アーク溶接機に電撃防止装置がついていない。
- ・溶接用ワイヤや被覆アーク溶接棒が規格品でない。
- ・ガス切断用台はあるが、鋼板及びアングル切断用の治具が準備できていない。
- ・ドリルの予備がなく、破損したらそれ以後の受検者は試験が不可能になる。
- ・水容器と火ばし、およびウエスが準備できていない。

繰り返しますが、試験環境が整わない場合、試験実施しないことがあります。

試験日程の再調整が2ヶ月程度先になることは十分有り得ますので、在留資格の変更に影響を与える可能性は少なくありません。

受検者がより良い環境で試験に臨めるようご協力をお願いいたします。